

アクエリアンサバイバルトーナメント16 大会ルール

2010/12/5

○メンバーについて

- 5人一組で1チームとする。
- メンバーの順番はスコアシート記入時の順番で固定とする。対戦毎にスタイルや順番を変える事はできない。
- テーブルナンバーの置いてある席が大将の座る席とする。
- メンバーの途中変更は認められない。

○使用可能なカードについて

【スタンダードスタイル】

- 下記に収録されているカードのうち、スタンダードスタイルに対応しているカードが使用可能です。
- ・2005年6月30日発売の「逆襲の巨蟹宮」以降発売されたエクスパンションに収録されているカード
 - ・スタンダードスタイル対応のエキストラパック、エキストラエクスパンションのカード
 - ・スタンダードスタイル対応の各種PRカード
 - ・その他、スタンダードスタイルで使用可能と定めたカード

【エクストリームスタイル】

- 下記に収録されているカードのうち、エクストリームスタイルに対応しているカードが使用可能です。
- ・2005年6月30日発売の「逆襲の巨蟹宮」以降発売されたエクスパンションに収録されているカード
 - ・スタンダードスタイル対応のエキストラパック、エキストラエクスパンションのカード
 - ・スタンダードスタイル対応の各種PRカード
 - ・その他、エクストリームスタイルで使用可能と定めたカード
- エクストリームスタイル制限カードを確認する際は、会場内の掲示物がジャッジを呼び確認を行ってください。

※当大会では本日新発売・初配布となる下記のカードは使用できません。

- ・トリプルカードセットトリプルカードセット「狗神煌」、「CARNELIAN」、「後藤なお Vol.2」に収録されているカード
- ・PR310「聖少女“ニコル・クラウス”」イラスト/宮下未紀
- ・PR313「死天使“ザラキエル”」イラスト/f.s

※また、Sagal、Saga II のカードであっても上記の使用可能なカードと同名のカードであれば使用可能です。その他のSagal、Saga II のカードは全て使用不可となります。

※同名カードのテキストが異なるカードにつきましては、最新エクスパンションのテキストに準じます。

※使用不可とされているカードの使用が発覚した場合、本日の全ての対戦結果を没収させていただく場合がございます。予めご了承下さい。

○大会ルール詳細

- 1対1の1本勝負の対戦を5組行う。
- 1回の対戦は30分で行う。
- デッキの途中変更は認められない。
※サイドボードは禁止。
- 先攻、後攻は7枚のドロウの前にジャンケンで決める。(勝った方が先攻・後攻を選択)
- 先攻のファーストドロウはなし。
- 後攻は1回のみ手札の引き直し可。手札を引き直す場合、手札を山札に戻してから、後攻、先攻の順にシャッフルを行い、その後、手札を引き直す。
- 開始の合図があるまで、手札を引かない。
- プレイに関する相談・助言、それに類する行為は禁止する。
- その他、詳細は最新のアクエリアンエイジルールブックに準ずる。
- ゲームの勝敗
 - ・敗北条件
 1. ダメージ置き場に置かれたカードが10枚以上になった瞬間。
 2. デッキにカードが一枚も無い状態で、デッキからカードを引かなければならない。
 3. 自身が敗北を認める宣言をする。
(投了した場合、自分の受けダメージは10点とカウントし、自分の与ダメージは0とする。)
 - ・勝利条件
対戦相手を敗北させ、かつ自分が敗北していないプレイヤーの勝利。
 - ・引き分け
 - 1.両者が同時に敗北した場合、引き分けとする。
 - 2.終了の合図があった時点で勝敗が決していない場合、そのターンの終了を待たずして引き分けとする。
- 5組の対戦の結果、勝利者の多いチームの勝ちとする。
勝利者数が同じだった場合、その対戦でのチームの合計得失点差(チームメンバーの与ダメージ合計とチームメンバーの受ダメージ合計の差)の多い方の勝ちとする。
チームの合計得失点差が同じ場合には、チームのその日の対戦での累計得失点差の多い方の勝ちとする。
累計得失点差も同じだった場合、チームリーダー同士のジャンケンで勝った方の勝ちとする。
- トーナメント形式で行う。ベスト8決定後、再度組み合わせ抽選を行う。
- 本大会を通して、2回目の警告を受けた場合、その場で失格となる。
- いかなる場合でも、ジャッジ・スタッフの判定・指示には従わなければならない。
- 遅延行為に関する注意
 - ・対戦相手が故意に対戦時間を引き延ばしていると判断した場合は挙手し、ジャッジを呼んで下さい。
 - ・ジャッジの判断により試合時間の延長、または追加のターンを行うことがあります。
 - ・ジャッジが故意の遅延行為と判断した場合、即座に失格となる場合があります。
- 上告について
 - ・ジャッジの裁定に納得ができない場合には、ヘッドジャッジに上告することができます。
 - 上告の際、改めてヘッドジャッジが裁定を下しますが、この裁定がジャッジの下した裁定と同じ場合でも異なる場合でも最終的な裁定となります。本日の大会において、その裁定が覆ることはありません。